

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第46回「初めての言葉」

【英語で大切な単語「NO」】

今は昔、私は家族を連れてカリフォルニア州に1年間滞在したことがある。当時の私と家内にとって米国本土に渡航するのは初体験で、出発前に先輩を訪問していろいろと教えてもらった。

うちは子供が小さかったので、それまで英語を全然教えていないし、何か対策を練るべきなのか。その数年前に米国に滞在した義理の兄からの助言はこうだった。

日本人の子供は「NO」という単語を知らない。英語を知らないのだから「YES」も「NO」も知らなくて当然だが、まず「NO」が重要。

たとえば子供同士が遊んでいると、自然に玩具の取り合いになる。そこで「NO」と言えないと、まともな付き合いにならない。日本人は「NO」と言えないから、どうも遊びがうまくない。

なるほど、経験は重要だ。必修英単語の中に「NO」を入れておこう。大人でも「NO」は大切だよ。

【食事は大事】

そうこうするうちに米国の生活が始まる。うちの息子は日本では幼稚園だけど、カリフォルニアでは小学生だ。英単語カードを数枚束ねてズボンにぶら下げる。「NO」だけでは心配だな。トイレは「Rest room」と書いておこう。先生は「Teacher」かな。

ところが、登校初日に「NO」でもトイレでもないところで問題発生。なんと息子が昼食を食べられなかった。いくら英語が話せないからといって食事抜きとはひどい。1年生の食事の世話くらい学校の責任でしょ。さっそく学校に赴く。

「先生、うちの子は昼食抜きでしたよ。」「はい、ほかに食事ができない子が数人いました。大丈夫です。」

「とんでもない。大丈夫ではないですよ。食事ができないのは大問題。」「この学校の昼食のシステムをご存じですよ。お弁当を持参してもよい。給食は1人1ドル。現金でもよいですし、回数券のクーポンを買えば割安です。」

「だから、息子に1ドル紙幣を持たせましたよ。でも、お金を出すべきところで英語がわからないのです。なんとか助けてもらえないですか。」「ですから大丈夫です。毎年新入生は初日に数人が食べていません。しかし数日後には全員食べられます。ですからご心配だとしても、決して父兄が学校に付き添って来ないように。本当に大丈夫ですから。」

結局、わが息子が最初にアメリカで覚えた英単語は「Money」

だった。給食の時に「Money」と言われたら、1ドル紙幣を出す。これが小学校の現実。

【どこの国でも困らない幼児】

それにしても子供は言語の学習が早い。あっという間に親を抜いてしまう。急に小学生になった息子は最初こそ親を心配させたが、後にはReading、つまり国語でよい成績を取る。一緒に飛行機で米国内を旅行した時には、パイロットの機内アナウンスを親よりも早く理解してベルトを締め、私の方を心配そうに見た。

息子よりも小さい我が家の娘は当時幼稚園児で、日本では「あいさつ」が書けなかった。日本語が身につけていないのが幸いしたのか、英語を覚えるのがすこぶる早く発音も良い。家内に英語を

教えてくれていた近所のボランティア女史に「お嬢ちゃんの発音はアメリカンアクセント」と認定された。娘が言うには、幼稚園で英語がわからなかったのは一度だけ。蜜蜂に刺されて先生に氷で冷やしてもらった時に、氷をどこに捨てればよいかを言われたが、それが理解できなかった。その一度だけだという。

一方の親はレンタカーを借りに行き、「そのルノーを借りたい。」「お客さん、アライアントですね。」

「いえいえ。アライアントではなく、そこにあるルノー、と押し問答を3回繰り返した挙げ句に、実際に車のところまで事務員

を連れて行き、「このルノーだってば。」

『お客さん、これはルノー製のアライアントという車種です』と、まるで落語のような騒ぎ。ああよかった。私の英語が通じないのかと思った。そう言えば、ベンツも「メルセデス」と言うのだな。

【言葉は忘れる、記憶は残る】

異国で大活躍した幼児も、帰国後には英語をあっさり忘れてしまう。親は必死に英語をキープさせようとする。今ならばきっとインターネットを活用しただろう。当時の私は、米国の友人に頼んで定期的にアメリカの子供向けテレビ番組を録画して送ってもらった。

言葉は忘れても多少の文化は身に付くものらしい。息子が帰国後に娘に言った言葉は、「日本の小学校では男の子が偉いんだ。名簿だって男が先に並んでいる。」

そこで家内が聞く。『アメリカの小学校ではどうなの?』『もちろん給食を取るの女の子が先だよ。当り前じゃないか。』

そうか。子供の時から当り前なのか。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp